

発言通告表（一般質問）

令和6年6月定例会

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
1	遠藤 盛正（22）	<p>1. 観光地域づくり法人（DMO）を通し、富士市の観光施策をスポーツ観光という視点から見ることについて</p> <p>DMOとは、地域の多様な関係者を巻き込みつつ、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりのかじ取りを行う組織をいいます。また、DMOの理念はSDGsとも重なっており、これまで地域の課題解決や観光推進は、観光協会は観光協会、民間は民間、NPOはNPOとばらばらに行っていました。</p> <p>しかし、複雑な課題や地域間格差を解決しなければいけない現在、それぞれがばらばらに活動することよりも、知恵を合わせてみんなで取り組むことが重要となります。また、DMOとSDGsに共通する理念はパートナーシップであり、いかに多様な人たちを巻き込んで協働できるかが鍵を握る点では同じ方向にあると思います。</p> <p>富士市では、平成27年度から10年間を計画期間とした富士市観光基本計画を策定しており、今年度がその10年目に当たります。令和2年3月には半期5年を経過し、計画の見直しがされています。</p> <p>それから5年がたとうとしていますが、その計画ではこれまでの富士市の観光を取り巻く外部環境を振り返っています。よい点は、交通インフラが整っていて近隣大消費地からの観光客が見込めること、全国的に増加している外国人旅行者の主要な移動ルート上にあることなどです。問題点としては、富士市周辺は富士山東部をはじめ、箱根町、熱海市、御殿場市など、多くの著名な観光地や商業施設などもあり激戦エリアになっており、富士山観光としては、山梨県側や富士宮市の知名度が高く、多くの観光客はそちらに流れていることだとしています。</p> <p>また、富士市内の観光の特徴において、強みとしては、富士山という強力な資源を有していることや、田子の浦港（しらす）、大淵笹場、富士川楽座、須津川溪谷など一定のファンのいる観光資源があり、ビジネス客も多く訪問し、近年のビジネスホテルの新築等により、多くの宿泊客を受け入れるキャパシティがあることです。一方、弱みとしては、訪問する旅行者が宿泊する割合が周辺観光地に比べ低く、短時間の立ち寄り地点になっていることや、滞在中の消費額が少なく、観光客の地域内周遊があまり見られないことと総括をしています。</p> <p>富士市の現状では、観光は主要産業ではないため、多くの市内業者において、観光事業に積極的に取り組もうという機運は高くありません。しかしながら、富士山という強力な観光資源や都市圏からの観光客を呼び込みやすい地理的環境と</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
1	遠藤 盛正（22）	<p>いった強み、好機を生かすことができれば、観光事業での収益拡大につながり、産業としての発展が期待できると考えます。そのためには宿泊客を得ることが大切で、日帰り通過をさせないように、富士市の地域特性に沿った観光振興を推し進めることが大切になると思います。</p> <p>そこで今回の質問では、遠くから見て楽しむ観光ではなく、体験型というキーワードも含めたスポーツツーリズムの推進こそが、これからの富士市観光の大きな目玉になることを信じて、スポーツに特化した富士市独自の観光地域づくり法人（DMO）を富士市として進めるべきだと思います。</p> <p>私は平成19年に議員となり、これからの富士市の観光はスポーツがキーワードになる、富士川緑地は富士市の宝ですと訴えてきました。そのために必要なスポーツ施設のハード整備が進み、間もなく完了します。</p> <p>その一つは、スポーツをしながら雄大な富士山を望める富士川緑地の左岸・右岸整備です。スポーツイベントや合宿にぴったりの施設は準備できました。国際イベントから地元のイベントまで、あらゆるイベントの開催に応える富士市総合体育館の完成も間近です。これらの施設に魂を入れる意味で、いよいよスポーツ観光をサポートする組織づくりが必要となりました。</p> <p>スポーツで観光産業を活性化することに重点を置いた施策について以下、質問いたします。</p> <p>(1)現在の富士市観光基本計画における成果と次期計画の方針を伺います。</p> <p>(2)観光推進アドバイザーとして株式会社エイチ・アイ・エスから派遣を受け入れましたが、いま一度、具体的な役割とこれからの富士市は何を目指すのか伺います。</p> <p>(3)スポーツ観光の拠点として期待される富士川緑地の整備が進む中、本年度に新たな指定管理者を選定しますが、スポーツ観光を進める意味合いから、選定の基準は何か、これまでの仕様書との変化はあるのか伺います。</p> <p>(4)富士市での観光地域づくり法人（DMO）とスポーツ観光組織をどのようにお考えか伺います。</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
2	一条 義浩（27）	<p>1. 職員人事について</p> <p>公務員制度の中心となる職員人事においては、公正性と透明性が極めて重要です。適切な人材の配置、昇進・異動を通じて職員のモチベーションを向上させることで、業務の質と市民サービスを高めることが目的です。そのために、公正かつ透明な選考プロセスを確立し、職員の能力と意欲を適切に評価し、それを処遇に反映させることが不可欠であると考え、以下6点についてお尋ねします。</p> <p>(1) 職員人事は、公正かつ透明な選考プロセスに基づいて運営されていると考えるか。</p> <p>(2) 基礎自治体において優秀な職員とは、どのような職員を指すのか。</p> <p>(3) 人事評価を通じて、職員に有意義なフィードバックと成長の機会を提供しているか。</p> <p>(4) 異動の際に職員の希望をどの程度考慮しているか。</p> <p>(5) 評価の公正性を確保し、同時に人事課の業務効率を高めるために、人工知能(AI)の導入を検討すべきと考えるがいかがか。</p> <p>(6) 会計年度任用職員で一定の能力と意欲が認められる方については、特別な選考方法を通じて、正規職員への登用を検討してはいかがか。</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
3	望月 徹（11）	<p>1. 富士市斎場の将来について</p> <p>本市において、亡くなられた方を火葬する斎場は、丘地区にある富士市斎場で、一部では静岡市清水区蒲原の庵原斎場などが使用されています。</p> <p>本市の斎場の施設は、炉が7基（うち1基は小型で汚物用として使用）、炉が入っていない空室が1基あります。受入れから収骨まで約2時間を要するため、1日の受入れは最大14件ですが、友引明けは13件、通常は12件、予約状況により1月から2月は13件を実施する日もあり、年間では約300日稼働しています。</p> <p>今後、団塊の世代の高齢化に伴い、これからの20年間は死亡者数が増加していくことが予想されることから、富士市斎場の将来について、以下、質問いたします。</p> <p>(1) 今後需要が増加する20年先までの需要と供給のバランスについて、シミュレーションをしているか、している場合、その結果について、お伺いいたします。</p> <p>(2) 災害時、近隣都市との連携が不可欠ですが、東部地区あるいは静岡市を含めた地域での需要と供給について、事前に連携していく必要があると考えるが、現状と今後の対応についてどのようにしているかお伺いします。</p> <p>(3) 施設の維持管理について、どのような対策を取っているかお伺いします。</p> <p>2. クリーンセンターききょうの将来について</p> <p>本市の下水処理は主に下水道に直結した処理場として、東部・西部浄化センターがあり、合併処理槽などから引き抜いた汚泥処理をクリーンセンターききょうが担っております。処理人口比率は、概算で浄化センターが70%、ききょうでの処理が30%となっており、ききょう分は減少傾向にあります。</p> <p>ききょうは、し尿、浄化槽汚泥、合併浄化槽汚泥の受入れ・処理工程の中で、汚泥として残ったものは場外（新環境クリーンセンター）に搬出し、液体は最終的に活性炭処理を経て放流しています。平成9年より稼働し、27年経過しており、長寿命化と将来の在り方について、人口減少、処理形態人口の変化、そして浄化センターとの関連も含め、検討を進めていく時期に差しかかっていると考え、以下質問します。</p> <p>現在の処理工程の抜本的な見直しと処理工程の途中から西部浄化センターに合流させるという2案について、ともに需要の変化への対応と経費の大幅な節減に寄与していくと考える。そのため、費用対効果として、ライフサイクルコスト、イニシャルコストとランニングコストなどについて、検討していく段階にあると考えるが、当局の見解を伺います。</p>	市長 及び 担当部長